

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670800770
法人名	医療法人社団 さつき会
事業所名	グループホーム 明日葉
訪問調査日	平成 20 年 12 月 12 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 4 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	670800770
法人名	医療法人社団 さつき会
事業所名	グループホーム 明日葉
所在地 (電話番号)	山形県酒田市曙町2-24-2 (電 話) 0234-26-7173

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年2月4日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 22 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人, 非常勤	人, 常勤換算 14人

(2) 建物概要

建物形態	併設／単独○	○新築／改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 1,150 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あしたばクリニック、日本海総合病院、日本海総合病院酒田医療センター 石川歯科診療所
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自然や地域とのふれあいを大切にします」という理念の下、地域の幼稚園や小学校との盛んな交流、非常通報装置を利用した自治会や地元企業との災害時協力体制の確立が行われ、また、災害時にはホームで地域の高齢被災者を5名まで受け入れる体制づくりにも取り組んでいる、地域に密着したグループホームです。
併設のクリニックや老人保健施設との医療面での連携体制ができており、「口腔機能向上のための健口体操」「リハビリ体操」を毎日行うことを通して、利用者の心身の機能維持、向上にも取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 年2回の避難訓練(夜間想定を含む)が、自治会と地元企業2社の協力を得て行われている。また、非常通報装置により自治会や地元企業に緊急連絡が行くシステムづくり、災害時にはホームで地域の高齢被災者を5名まで受け入れる体制づくりにも取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が集まった時に、管理者が自己評価と外部評価を議題として話し、職員から意見を出してもらいながら、主任と副主任が中心になってまとめている。また、前回の結果についても改善に向けた具体的な取り組みが行われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、行事、防災訓練、感染症、インフルエンザ予防などについて話し合われている。また、会議の際に家族から出された質問(医療費控除や福祉灯油購入助成券など)については、各窓口に問い合わせるようになっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置や年1回のアンケート調査が行われ、また、面会時にも話を聞くようにしており、家族から出された意見(室内の明るさについてなど)を運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の盆踊りや文化祭への参加、近くの幼稚園児と行う芋掘り、小学生の訪問を受けたり学習発表会に出ることなどにより、地域との交流を図っている。また、自治会にも加入している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自然や地域とのふれあいを大切にします」「個性と人権を尊重します」「入居者、家族とのコミュニケーションを大切にします」など、事業所独自の理念がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「何に向かって働くのか」を明確化するために、出勤したら理念を読み上げること、申し送りの際に確認することが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊りや文化祭への参加、近くの幼稚園児と行う芋掘り、小学生の訪問を受けたり学習発表会に出かけることなどにより、地域との交流を図っている。また、自治会にも加入している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が集まった時に、管理者が自己評価と外部評価を議題として話し、職員から意見を出してもらいながら、主任と副主任が中心になってまとめている。また、前回の結果についても改善に向けた具体的な取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、行事、防災訓練、感染症、インフルエンザ予防などについて話し合われている。また、会議の際に家族から出された質問(医療費控除や福祉灯油購入助成券など)については、各窓口に問い合わせて答えるようにしている。		

山形県 グループホーム明日葉

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者から助言をもらったり、サマーフェスティバルに足を運んでもらったりしながら、連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり、健康状態、金銭管理の状況が家族に報告されており、また、毎月発行される「明日葉だより」では、予定や活動についてのお知らせがなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や年1回のアンケート調査が行われ、また、面会時にも話を聞くようにしており、家族から出された意見(室内の明るさについてなど)を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間での職員の異動はあるが、職員が常にユニット間を行き来しているため、顔なじみの関係ができあがっており、利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、不安にならないように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「管理者研修」「リスクマネジメント」「重度化をケアするヒント」などの外部研修に参加している。また、「食事ケア」や「認知症の病状の理解と受容」など、毎月の内部研修も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、意見交換、グループ討議、勉強会参加、交換実習が行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は「人生の先輩である」ことを意識した支援を心がけており、カラトリ(ずいき芋の茎)のむき方や干し方、お茶や書道などを利用者から教えてもらうこと、一緒に踊りを楽しむことなどを通して、共に支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム利用前のケアマネジャー、家族、本人に確認するようにしている。また、困難な場合は、本人の立場に立って検討するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴や既往歴についての情報を、家族やホーム利用前のケアマネジャー等から集め、本人、家族の希望を取り入れた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護度が変わった場合、現状に即した介護計画の見直しがなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	「通院時情報提供表」を家族に渡し、必要な医療が受 けられるように支援している。また、緊急時マニュアルが 作成されており、適切な対応ができるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	家族の考えを確認しながら、必要な話し合いを家族や 医師と持つようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者には敬語を使用し、プライバシーを損ねるような 対応をしないようにしている。また、個人情報が外部の 人には触れないように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	「ごちそうさまの声がけ」や「食べ残しがある利用者への 声がけ」がないまま、次々と利用者のお膳を片付け、歯 磨きやベッドに誘導する職員の姿が見られた。 また、夕食の時刻は午後5時頃となっている。	○	認知症高齢者グループホームとしての支援の在り方や職 員の関わり方について、利用者側の視点や立場からの検 討を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫や下ごしらえなどに利用者からも関わってもらい、食事が楽しいものになるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴が確保されており、入浴を嫌がる利用者の場合も、時間や日にちをずらして入浴してもらうようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶、塗り絵、民謡、散歩や外出などの気晴らしの支援、また、野菜の収穫や下ごしらえなどの役割の支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、外食、美容院、お祭り、紅葉狩り、白鳥見学など、利用者の要望や季節を考慮した外出が支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関、事務所がガラス張りのため、各ユニットからもう一方のユニットの様子がわかる造りになっている。職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、見守りによる支援が常に行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練(夜間想定を含む)が、自治会と地元企業2社の協力を得て行われている。また、非常通報装置により自治会や地元企業に緊急連絡が行くシステムづくり、災害時にはホームで地域の高齢被災者を5名まで受け入れる体制づくりにも取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事と水分の摂取量を記録して把握している。また、利用者の状態に合わせたお粥や刻み食の提供、苦手な食べ物やアレルギー食品が含まれる場合の代替食品の提供も行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房や加湿器の設備や季節に合わせた装飾もあり、利用者が居心地よく過ごせるようになっている。また、掃除が行き届き、明るく、清潔な共用空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、テーブル、家族お手製の装飾品、小学生が描いた似顔絵などがあり、明るく居心地の良い居室になっている。		